医療法人 慈圭会
八反丸リハビリテーション病院

はったんまるごと便り

HATTAN MARU-GOTO DAYORI

vol.32
2026
AUTUMN

take free



八反丸
リハビリテーション病院
80周年記念特集



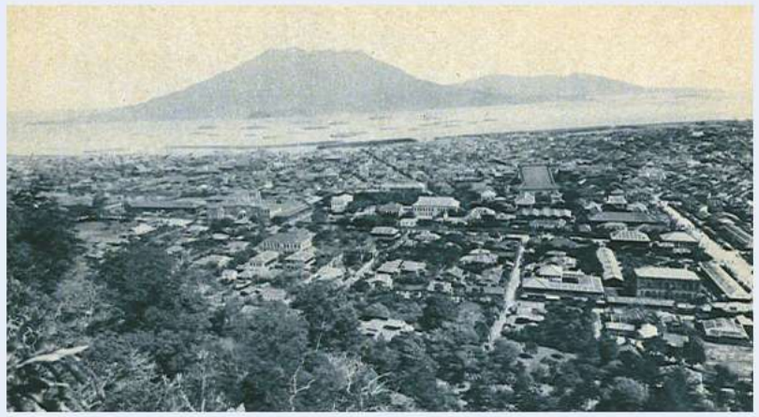
1946年／八反丸外科医院開設



1946年／開院当時



開設者 八反丸哲夫



1946年／当時の鹿児島

八反丸リハビリテーション病院 80年のあゆみ

1946年	「八反丸外科医院」として八反丸哲夫氏が開院 初代院長・八反丸哲夫氏が、 東京慈恵会医科大学で培った最先端の外科医療を 携えて郷里鹿児島に戻り、地域医療の提供をスタート
1952年	「八反丸病院」へ移行（病床数70床）
1966年	「医療法人慈圭会 八反丸病院」へ法人化 （病床数200床）
2000年	総合リハビリテーション施設基準承認 療養病床4階承認（一般病床53床・療養病床120床）
2015年	八反丸リハビリテーション病院へ名称変更
2020年	福田美喜子 院長 就任
2023年	八反丸哲史 理事長 就任、八反丸健二 会長 就任

1945年	鹿児島大空襲
1946年	戦後復興の本格化
1950年	医療法人制度の創設 鹿児島駅 駅舎再建
1993年	8.6水害 稲荷川や甲突川が氾濫し、 上町・天文館一帯が水没
2020年	新型コロナウイルス感染症の世界的大流行



人を診る医療を、次の時代に。

Hattanmaru Rehabilitation Hospital
80th Anniversary!



2026年8月8日（土）、城山ホテル鹿児島にて、
医療法人慈圭会 八反丸リハビリテーション病院の
創立80周年記念式典および祝賀会を執り行いました。
当日は多くのご来賓の皆様、ならびに関係各位にご出席いただき、
節目となる佳き日を共に迎えることができました。
式典では、会長の八反丸健二よりスライドを用いた
記念プレゼンテーションが行われ、
80年の振り返りと次代への展望、
そして皆様への深い感謝の意が表されました。



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は本年、おかげさまで創業80周年の節目を迎えることができました。これもひとえに、長年にわたり温かいご支援とご信頼をいただきました患者様、ご家族の皆様、地域の皆様のご協力と助けがあったからであり、これまで働いていただいた先生方およびスタッフの方々の努力と苦労の賜物と、心より深く感謝申し上げます。

この節目に、当院の80年を振り返ってみたいと思います。

当院は、戦争の傷跡が未だ生々しく残る1946年、復興へと力強く歩き出した上竜尾の地に、初代院長である八反丸哲夫が「八反丸外科医院」として開設したことに始まります。日々の暮らしにさえ困窮を極めた時代。サツマイモなどの農産物を治療費に充てて欲しいという患者さんも多くいたと聞いています。東京慈恵会医科大学で最先端の外科医療を学び、郷里鹿児島に戻った哲夫の胸にあったのは、東京慈恵会医科大学の学祖である高木兼寛



1986年頃



1975年頃



兄眞人と（幼少期）



1961年頃の外観



2014年頃



1999年／急性期からリハビリ医療へ転換



兄眞人と



1961年頃の集合写真

の教え「病を診ずして病人を見よ」でした。『訪ねてきた人は断らず、全員を診る。困っている人を決して見捨てない』という、地域の人々の命と真正面から向きあった開設者の精神は、今日まで脈々と受け継がれ、私たちの不変の原点となっています。

1952年（昭和27年）には「八反丸病院」へと移行し、急性期病院として上町周辺における地域医療の中核を担う存在へと発展いたしました。さらに安定的かつ組織的な経営基盤を整えるため、1966年（昭和41年）には「医療法人慈圭会 八反丸病院」へと改組。整形外科と消化器外科を二大柱とする急性期病院として、地域の信頼を確固たるものにすべく奔走した時代でした。この頃は毎日のように手術を何件も行い、スタッフと共に慌ただしい日々を送っていたことを思い出します。

一方で、時の流れとともに高齢化が進む中で、私たちは新たな課題に直面します。命を救う急性期医療が重要であることは言うまでもありませんが、その先の『在宅復帰』へとつなぐ回復期リハビリテーションの大切さをひしひしと感じるようになったのです。そんな折、私の良き理解者でもあった兄、眞人前理事長が急逝。それまでは偉大な兄の後ろについていけば安心だと信じていた私にとって、あまりに突然で深い喪失の瞬間でした。一人でこの病院を守ることとなった私が「何を残し、何を変えるべきか」。出した答えこそが、当院を「リハビリテーション医療」へと大きく転換させるという決断でした。1999年当時、当院の周囲500メートル圏内には1000床近くの急性期病院がありました。少しずつ進めてきたリハビリの分野をもっと充実させ、回復期医療を提供することが、地域で果たすべき私たちの役割と考えたのです。

とはいえ、これまで培ってきた急性期から回復期リハビリテーション病院へと舵を切る道は、決して容易なものではありませんでした。当時はまだ、鹿児島において地域連携の考え方が根付いておらず、先駆者としてリハビリに適した職員の養成・教育・病院づくりに一歩一歩手探りで取り組みました。リハビリとは、「自分の暮らしへと戻る医療」です。病ではなく病人を診る、という思想を時代に合わせて実践するための変化でした。

2003年（平成15年）病床をすべて医療療養型病床とし、2015年（平成27年）病院名を「八反丸リハビリテーション病院」と改名。こうして私たちは、一人の患者様に対して医師、看護師をはじめ、複数のメディカルスタッフが連携して治療やケアに当たる『チーム医療体制』を確立するにいたりました。

そして2024年（令和6年）、次の時代に向けた新しい挑戦として、新病院に新築移転いたしました。明るく開放的なリハビリ室や、病棟、充実した設備を備えた新しい病院は、患者様が自分の暮らしへ戻るための医療を、さらに高い次元で実践するための新たな舞台です。

初代から脈々と流れる「人を診る医療」の精神は、現理事長、院長に確実に受け継がれています。病院の形や名前は変わっても、私たちの目指す医療は変わりません。患者様に「嬉しい・良かった」と思っていただける医療・サービスを提供し続けること。開設以来の想いを胸に、次の100周年に向けて、地域医療の発展のために歩みを進めてまいります。



未来を見据え、患者様にとっての「嬉しい・良かった」のために最善のサービスを模索し続ける理事長（左）と、患者様との日々のコミュニケーションを大切に、今日できることを着実に積み重ねる院長（右）。二人の絶妙なバランスで、当院は次の時代を創ってまいります。



最後に理事長より、
次なる未来へと向けた力強く熱いメッセージが贈られました。
その後出席者全員での記念集合写真撮影を行い、
職員一同、連帯感に満ちた素晴らしい締めくくりとなりました。

皆様、本日は医療法人慈圭会80周年記念式典にご出席いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで当法人は、本日80周年という大きな節目を無事に迎えることができました。

これまで法人を支えてくださった地域の皆様、お取引先の皆様、そして歴代の先生方・職員・役員の皆様に、心より感謝申し上げます。

ただ、80周年はゴールではなく、一つの通過点でしかありません。次は100周年。それが、私たちの次の目標です。しかし、ただ100年続けばいいとは思っていません。

人口減少や医療制度の変化など、これからの医療業界・医療経営は、これまで以上に厳しい時代になると思います。

だからこそ、私たちは地域の声を聴き、地域の皆様とともに、地域が本当に求める価値を創っていく存在でなければ、これからの時代に選ばれる病院にはなれないと思っています。

私は、「選ばれる病院」になるためには、当法人の理念である「みんなの嬉しい・良かった」を、これからも追い求める組織であることが何より大切だと信じています。

先代や先々代のような強いカリスマ性やパワーは、正直、私にも院長にもありません。しかし、だからこそ、私たちは皆さんとの対話を大切にし、一緒に考え、一緒に歩む法人でありたいと思っています。

そして20年後、100周年を迎える年の8月8日に、またこの城山ホテルで、次はエメラルドホールで、皆さんと盛大に100周年をお祝いし、「この20年、いろいろあったけど本当に良かったね」と笑って振り返ることが、私の夢です。

そして、その100周年を次の世代へ誇りを持って引き継ぐことが、私の役目だと思っています。その日を目指して、これからも職員の皆さんと力を合わせ、「みんなの嬉しい・良かった」をこつこつと増やしていきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。これからも慈圭会への変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。









式典では、衆議院議員のみやじ拓馬様よりお祝いのお言葉を頂戴し、乾杯のご発声をいただきました。
その後の式中では、永年勤続功労賞と新人賞の表彰式が執り行われ、
勤続40年を迎えたベテラン職員と、昨年度入社の新人職員より、それぞれ謝辞が述べられました。
普段は全員が一堂に会して歓談する機会がなかなか無いこともあり、
終始和やかで温かな雰囲気に包まれた80周年記念式典となりました。
これからも職員一丸となって、地域の皆様に選ばれる病院づくりに励んでまいります。





さらに、勤続20年以上の職員を中心に壇上へ上がり、長きにわたって組織を導いてこられた会長への感謝と敬意を込めて、理事長より花束贈呈が行われました。



締めくくりには、長年にわたり当法人の発展を温かく見守り続けてくださる会長夫人へ、会長自ら花束が手渡されました。お二人のこれまでの絆を感じさせる感動的なひとときとなり、会場中が温かい拍手と笑顔に包まれました。

2026年度の定期表彰式が行われました！

永年勤続功労賞をはじめ、6賞の表彰が実施され、理事長より表彰状が授与されました。



永年勤続表彰 40年勤続／1名





永年勤続表彰 30年勤続／2名



永年勤続表彰 20年勤続／1名



永年勤続表彰 10年勤続／2名



ベストオブサンクス賞／2名

日々の業務に取り組む姿勢や模範となる行動を行っている個人・部門へ贈られる賞です。今年度は、戦略推進課のスタッフと、調理員チームが受賞となりました。



新人賞／3名

昨年度入職した職員の中で、特に目覚ましい成長や活躍を見せた3名のスタッフに贈られました。



学術賞／2名

院内研究発表会において優秀な成績を収めた職員が対象で、本年度は2名のスタッフに贈られました。



CS賞（素敵な挨拶で賞）／6名

CS賞とは、Customer Satisfaction（顧客満足度）の向上に貢献した職員を表彰する賞です。今回は、挨拶をテーマとして、各部署で優れていた職員6名に贈られました。



奨励賞／3名

院内研究発表会における発表が高評価であり、今後も継続した研鑽を期待する職員3名に贈られました。

第30回日本看護管理学術集会

東京国際フォーラムで開催された
「第30回日本看護管理学術集会」にて、
当院の看護師長が発表を行いました。





演題は、「回復期リハビリテーション病棟における看護師と看護補助者協働の課題構造」です。
いつもとは違う緊張感の中での発表でしたが、これまでの私たちの取り組みを振り返り、これからの看護のある方を深く考える大変貴重な機会となりました。現場の「気付き」をただの経験で終わらせず「学び」へ。そして患者様のための「より良い実践」へ。
私たちはこれからも、日々の実践と研究のサイクルを大切にしながら、患者様一人一人に寄り添った質の高い看護とケアをお届けしてまいります。

玉龍中学校職場体験学習

今年度も玉龍中学校より、
職場体験学習に3年生の生徒さん3名が
来られました。

2日間で医療現場のさまざまな職種について、座学や実習を通して経験していただきました。期間中は、理学療法士の施術が身体にどのように影響するのかを体験したり、集団療法で患者様と楽しく過ごしたり、昼食配膳業務をお手伝いいただいたりと充実した時間を過ごされていました。
参加した3名全員が「将来的に医療職を目指したい」という強い思いを持ち、当院での職場体験を希望されたそうです。今回の職場体験学習を通して、医療職への理解・興味を深めていただけたのではないかと思います。皆さんが将来夢を叶えて、素晴らしい人生を歩んでいかれることを職員一同心から願っております。







院内研究発表会

当院では「院内研究発表会」を年2回開催しています。本年上半期の発表会が7月末に行われました。

各職種から11題のエントリーがあり、今回は抽選で選ばれた8題の研究発表会となりました。活発な質疑応答が行われ、大変有意義な会となりました。院内研究発表会は自身のスキルアップはもちろん、今後のより良い臨床・業務につながる重要な院内活動です。今後も、患者さん・職員・地域にとってより良い取り組みを行い、信頼される病院であるよう一丸となって活動してまいります。





①回復期リハビリテーション病棟退院後におけるソフトランディングシートを用いての訪問リハビリテーションの取り組みについて
②八反丸リハビリテーション病院に勤務している専門職における骨粗鬆症に対するアンケート調査





③脳血管性認知症患者に対する人間作業モデルに基づく作業療法の効果～ケースシリーズ～
④業務指導の「見える化」でスマートな人材育成へ～新人・中途対応の教育プログラム構築～





⑤身体的拘束最小化チームの発足と活動報告～身体拘束率10％以下を目標とした多職種連携～
⑥回復期リハビリテーション病棟における看護師と看護補助者協働の課題構造～対等性認識と業務運用の観点から～





⑦Parkinson病により咽頭期嚥下障害を呈した症例に対するNMESの効果
⑧回復期早期における2度の低頻度反復性経頭蓋磁気刺激と集中的作業療法の効果～反転デザインによる脳卒中の1例から～



防犯講習会

鹿児島市より安心安全指導員の方をお招きし、防犯講習会を行いました。

はじめに、当院の防犯設備・備品についてどのようなものがあるのか確認しました。次に安心安全指導員の方より、実技を中心とした講義を行なっていただきました。
不審者に腕を掴まれたり、後ろから抱きつかれた時などの対処方法や、さすまたの有効的な使用方法を学びました。患者さんの安心・安全を守るため、そして、職員自身の安心・安全も守れるよう、防犯教育や体制整備に継続して取り組んでまいります。













医療ガス講習会

当院の医療ガス設備の保守管理を委託している
鹿児島熔材様を講師にお招きして、
新入職員向けの医療ガス講習会を行いました。

実際のボンベを用いて、容器（酸素ボンベ）の取り扱いや酸素流量計の取付時の注意点、実際に医療現場で起きたヒヤリハット事例などをご紹介いただきました医療ガスは患者さんの治療に重要な医薬品・医療設備ですが、適切に使用しないと重大な事故につながる可能性があります。患者さんへの安心・安全な医療の提供はもちろん、自分自身を事故から守るために、安全対策のポイントをしっかりと確認しました。
今後も引き続き、適切な知識・技術の習得に務めて参ります。







Mission, Basic Policy and Vision

【 理 念 】

みんなの「嬉しい」「良かった」を追い求めます。

【基本方針】

◎患者さんの「嬉しい」「良かった」を増やします。
◎職　員　の「嬉しい」「良かった」を増やします。
◎地　域　の「嬉しい」「良かった」を増やします。

【ありたい姿】

みんなを惹きつける病院を目指します。



八反丸イメージキャラクター
「はちまる」

Check and Follow Us!

公式ホームページ
https://hattanmaru.jp/

Facebook
@hattanmaru.hospital

Instagram
@hattanmaruofficial

医療法人 慈圭会
八反丸リハビリテーション病院

〒892-0852　鹿児島市下竜尾町3番28号　TEL:099-222-3111（代）　FAX:099-226-8945
URL　https://hattanmaru.jp　E-mail　jhh@hattanmaru.jp